

隠れた奈良の魅力再発見

とっておきの奈良

vol.21

「ほんまもん」に

出会える場所

村がまるごとおもてなし



手作りの総菜、野菜を手に、「大自然の恵みの宝庫、十津川ならではの自慢の品です。ぜひ、ほんまもんに触れに来てください!」と皆さん。

道の駅「十津川郷」

所 吉野郡十津川村小原225-1(国道168号沿い)

営 9:00~17:00(年中無休)

問 ☎0746-63-0003



十津川観光の目玉、鉄線では日本一長い「谷瀬の吊り橋」。全長297m、高さ57m。ゆらゆら揺られてスリル満点。



源泉かけ流し温泉の足湯ではこりくつろぐ観光客。「癒されるわ。足湯につかりながら、初めて会う人と気軽に話せたりするのいいわ!」

吉野山の奥深く、山峡と清流の絶景ドライブを楽しんで、日本三大秘境の一つ、十津川村へ。鉄線では日本一長い谷瀬の吊り橋に世界遺産の熊野古道、日本百選の山あり滝あり。別天地での観光の道すがら、お立ち寄りスポットとして人気を集めている

の道の駅「十津川郷」です。この魅力は、里人が昔ながらに作った総菜や採れたて野菜の特産品が並ぶこと。「村の一番ええもんを村の名人が手塩にかけて作ったほんまもん」を揃えました」と道の駅を民間運営する「ほんまもんグループ」の中嶋大樹さんは胸を張ります。70歳代が中心というグループが発足したのは約8年前のこと。シニア向け支援事業の助成を得て、毎土曜に小さな市を開いたのが始まりです。「おばあちゃんの手作り感が好評を得たからか、めはり寿司が一日600個売れに売れて、朝から夕方まで握りっぱなしだったことも。一方でメンバーの高齢化が進む中、道の駅の民間委託の話が持ち上がり、活動の拠点にと運営を決めました。今では若い売り場スタッフも加わって、無理なく楽しく活動を続けています。

「東京23区がすっぱり入る。日本一大きな村」の十津川は、やさしい村づくりも目指しています。奈良県唯一の源泉かけ流し温泉があり、道の駅の足湯も無料。自慢の特産品も、おもてなしの心も、ほんまもんです!」

十津川村武蔵地区

「ほんまもんグループ」



「奈良・もてなしの心推進県民会議」では、生き生きとした生活や交流を両方まちづくりを実践している地区を、「もてなしのまちづくりモデル地区」として認定。十津川村武蔵地区もその一つです。



「山菜など地元で採れたものを使っているのが魅力的」と、お弁当を買っていく観光客。めはり寿司にばた餅、栃の実のお菓子を新鮮野菜…。「めはり寿司ならこの人が最高」「栃の実のアク抜きはあの人が一番」、村の名人が作る手作り品には固定ファンもいるほど。